

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハピネス国際キッズサポート(放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	R7年 10月 6日 ～ R7年 10月 10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15 (回答者数)	13
○従業者評価実施期間	R7年 10月 6日 ～ R7年 10月 10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 11月 7日		

○ 分析結果

公表日

令和8年1月16日

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	教育機関、医療機関、相談支援事務所、行政等と保護者のコミュニケーションサポート	各校の日程や行事、ご利用者についての連絡調整、相談支援員との連絡調整に対するサポート	本来なら、保護者が直接やり取りできるよう自立できるようにしていく。
2	日本語・ポルトガル語・英語、多言語のコミュニケーションが共存している。また、異年齢交流でもあり、多種多様な中でのコミュニケーション能力が養われる。	自然なコミュニケーションをする中で利用者は言葉を使い分けしている。例えば、わからない言葉だからと、悪い言葉を言ったり、悪口を言うようなことがおこった場合は、マナーや人権を理解する良い機会と捉えて、大切に扱っている。	保護者や本人の希望により、日本語・ポルトガル語・英語のいずれかを教えてほしいとの申し出があれば、行っている。
3	兄弟姉妹での利用者が多く、家庭へのサポートがよりやりやすい。兄弟姉妹ならではの問題にもサポートをすることができている。	兄弟姉妹間に生じるデリケートな家族問題にサポートを行う。また、そのことについて、保護者に対するアドバイスをを行っている。	利用者の年齢が上がるにつれて、問題や対処方法が変わってくるため、より丁寧に利用者の状況を把握し感じ取る能力を必要とする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	言葉の壁があり、難しい研修の言語の理解が困難だったり、実務の中でも、伝えたことが正しく理解できていなかったりする。	2か国言語がわかる職員に限られ、また語彙も少ないため、通訳では真意や細かい内容が伝わらない。	研修資料やコミュニケーションに、積極的にAIの翻訳機能を使用するなどして、工夫していく。
2	ブラジル系、フィリピン系と、食文化に差があり、そこに偏食が加わると、おやつ選択に困っている。	気分やわがままで食べられないのか、障がいの特質で食べられないのかを混同してしまう可能性がある。	食べられる種類のおやつを増やすと共に、選択する遊び部分も入れて良いのではないか。「おやつは楽しいもの」という体験に焦点をあてて良いのではないか。
3	工作・運動等、年齢や好みの幅が大きく、また、利用時間にもばらつきがあり、一斉支援の際の準備に工夫を要する。	年齢差・利用時間差・好みの差	同じ素材・同じ場所で、個々の年齢、好みに寄り添ったものを提供していく。種類や、過程段階を多くする。